

詩繪科

○自營

石井吉次郎 東京士

○全

山本 和全 全

彫刻撰科

○自營

増田 有信 宮城士

八月廿四日ヨリ全月廿日マテ本年募集ニ應シタル入學志願者八十五

名ノ入學試験ヲ行ヒシニ合格セシモノ四十一名又道廳府縣ヨリ特

選ニ係ルモノ九名ノ内合格セシモノ七名計四十八名アリ

九月十一日入學試験ニ合格シタルモノ及道廳府縣特選生中合格者計

四十八名ノ入學ヲ許ス全日本校規則第十八條ニ依リ學業品行殊ニ

優等ナルモノ左記十四名ヲ特待生トシ一學年間ノ授業料ヲ免除ス

繪畫科一年

齋藤 新助 岡山平

全

大石 榮雄 静岡士

彫金科一年

四谷 正美 岡山平

繪畫科二年

今田 直策 宮城平

彫刻科二年

村尾 平吉 鳥取平

彫金科二年

小泉 永雄 石川士

鑄金科二年

山本茗次郎 石川平

詩繪科二年

磯矢邦之助 大坂平

繪畫科三年

佐藤栄三郎 宮城平

彫刻科三年

菅原大三郎 山形平

彫金科三年

田雜 五郎 佐賀士

繪畫科四年

井上 良慶 新潟平

彫刻科四年

後藤 省吾 和歌山士

彫金科四年

岡部 覺弥 福岡平

十月本校規則第廿六條ニ依リ試験ノ上豫備之課程生徒一名ハ全月二

日ヲ以テ繪畫撰科一年へ繪畫科一年生徒一名ハ全月十一日ヲ以テ

繪畫撰科二年へ編入ス

本年中繪畫科卒業生ニシテ尋常師範學校尋常中學校高等女學校圖畫

科教員免許狀ヲ受領セシモノ十三名又生徒ノ願ニ依リ在學證明書

ヲ交付シタルモノ六十八名アリ

前記ノ外本年間ニ於ケル入退學其他生徒ニ関スル事項ヲ擧クレハ

左ノ如シ

再入學

一名

研究科へ入學

七名

規則第十九條ニ依リ譴責セシモノ

一名

全上 除名セシモノ

一名

全上 退學ヲ命シタルモノ

二名

死亡シタルモノ

一名

疾病事故等ニ依リ退學ヲ許シタルモノ

二十名

(道庁府県別各科生徒現員表、歳入歳出・所有物件等に関する事項は省略)

解説

1 生徒成績物展覧会・校友会臨時大会

創立より五年を経た二十七年春、本校では五年間の教育の実体を公開する生徒成績物展覧会と校友会の展覧会とが大々的に開催され、大きな反響を呼んだ。『錦巷雜綴』第二卷(同年六月十五日発行)にはその報告が掲載されている。

○授業成績物展覽會及校友會臨時大會

我カ東京美術學校ノ錦巷ニ設立アリシヨリ將ニ五星霜此數年ノ間ニ製作セラレタル成績物亦僅少ニアラス而シテ世ノ人未タ本校ニ於ケル美術教育ノ方法之レカ成績ノ如何ヲ知ルモノ甚ダ稀ナリ故ヲ以テ去ル四月十日ヨリ向フ一週間五年間ノ成績物及ヒ參考品等總テ授業上ノ順序ニ隨ツテ之ヲ展列シ併セテ校友會臨時大會ヲ開キ博ク觀覽券ヲ配布シテ世ノ美術ニ志ス人々ノ觀覽ヲ許シ以テ本校授業上ノ方針ヲ公示セリ

會場ハ本校日用ノ教場ヲ以テ之ニ充テ東方ノ本館ヲ授業成績物參考品等ノ陳列場トナシ西方ノ新館ヲ校友會臨時大會ノ展揭場トナセリ今其概況ヲ略記センニ本館ヲ階上階下ニ分チ階上ヲ本校所藏ノ參考品陳列所ニ充テ階下ニハ授業成績物教員ノ製作及ヒ泰西美術參考品ノ陳列ヲナセリ左ニ其陳列ノ順序ニ從テ之ヲ記サン

本館階下南方ノ第一室(豫備科繪畫教室)

- 鑄金、彫金、蒔繪三科ノ製作品即チ(順序ハ總テ當時陳列ノ順序ニ依レリ)
- 岡崎助教製作鑄金天人ノ圖テカゴ博覽會出品一面
- 鑄金科卒業製作○宮田辰太郎氏作觀音立像○武田三四郎氏作菅公座像○石川巳七雄氏作蘭陵王立像○鑄金科授業成績物(鑄造、蠟型)及ヒ手本類ノ順序并ニ參考品
- 彫金科卒業製作○飯田仁三郎氏作鐘馗ノ圖額面○酒井利之助氏作秋草圖象簍香爐○彫金科授業成績物及ヒ手本類ノ順序并ニ參考品
- 蒔繪科卒業製作○津村米太郎氏作山水圖ノ手箱○武谷富造氏作吉野山圖手箱○秋月復郎氏作乱菘圖ノ文臺○石川準禮氏作山水圖ノ硯宮○藤岡可明氏作武藏野香棚○同氏作松島ノ香合圖○蒔繪科授業成績物及ヒ手本類ノ順序并ニ參考品

○彫金、鑄金、蒔繪三科ノ圖案數十枚

本館階下南方ノ第二室(彫刻科卒業製作室)

彫刻科ノ製作品即チ

○竹内教授作木彫神武天皇ノ像○高村教授作木彫老猿ノ置物(チカゴ博覽會出品)○高村教授作木彫松方伯銅像鑄型○石川教授作木彫觀音ノ圖額面(チカゴ博覽會出品)○高村教授作木彫觀音ノ立像銅像鑄型○教員山田鬼齋氏作木彫武者圖額面

彫刻科卒業製作○井原二七郎氏作支那美人立像○峯斧吉氏作維摩座像○白井保次郎氏作老子騎牛ノ像○小和田武司氏作羅漢立像○大村西崖氏作聖德太子立像

○彫刻科授業成績物(木彫、石彫)及ヒ手本類ノ順序并ニ參考品

本館階上中央ノ第一室(學科教室)(此室ヲ以テ來賓ノ休憩ノ所に充テ茶菓ヲ供セリ)

古畫參考品即チ中ニ就テ重モナルモノハ

- 古畫普賢十羅刹女ノ圖○張思恭筆羅漢ノ圖二幅○姜道隱筆王母ノ圖○月山筆琴棋書畫ノ圖雙幅○常信筆鸞鳳ノ圖屏風壹雙○雪村筆猛虎ノ圖

本館階上南方ノ第二室(圖案科繪畫教室)

古畫參考品、寫生用甲冑裝束類、寫生用古面、及ヒ寫生用魚鳥ノ類即チ中ニ就テ重モナルモノハ

- 土岐洞文筆鷹ノ圖雙幅○伊東若冲筆鯉ノ圖○山雪筆耕作ノ圖小屏風壹雙○黒田稀皐筆鯉ノ圖屏風壹雙

本館階上ノ第三室(會議室)

古畫、彫金、蒔繪參考品即チ

- 天平時代厨か廬子屏繪○因果經一卷○芳崖筆觀音ノ圖○同上牧童ノ圖○雪村筆花鳥二幅對○雪舟筆群馬ノ圖○周耕筆鐘馗ノ圖○永徳筆龍虎ノ屏風壹雙

本館階下ノ第一室(彫刻教室) 第二室(寫生教室)

繪畫科ノ製作品即チ

○繪畫科卒業製作○溝口禎二郎氏菅公左遷ノ圖○島田佳矣氏筆徳川式室内裝飾○本多佑輔氏筆昭君降嫁ノ圖○岡本勝元氏筆楠公櫻井驛訣別ノ圖○關係之助氏筆藤原式室内裝飾ノ圖○山田於菟三郎氏筆徳川式室内裝飾ノ圖○倉田徳松氏筆武藏野ノ圖○高屋徳次郎氏筆釋氏說法ノ圖○小島光眞氏筆維摩講讚ノ圖○島田友春氏筆來迎佛ノ圖○下村晴三郎氏筆熊野御前花見ノ圖○内海廣精氏筆初夏山水ノ圖○鶉殿清氏筆蘇武訣李陵ノ圖○横山秀磨^マ氏筆村童觀猿舞ノ圖○三輪青谷氏筆春ノ山水ノ圖○島岡恒藏氏筆玄奘三藏印度ニ到ルノ圖○龜岡末吉氏筆項羽決戰ノ圖○西郷規氏筆俊寛鬼界ヶ島ニ訣別ノ圖

○繪畫科授業成績物及ビ手本類并ニ參考古畫類

本館階下ノ第三室(校長室)

○繪畫教員諸氏ノ製作品即チ○橋本教授筆月夜山水ノ圖○巨勢教授筆聖徳太子勝蔓經講讚ノ圖(チカゴ博覽會出品)○川端教授筆墨堤春暁ノ圖○橋本教授筆白雲紅葉ノ圖○巨勢教授筆天女ノ圖、并ニ鳳凰殿格天井ノ一部(チカゴ博覽會出品)

本館階下ノ第四室(事務室)

○泰西諸國美術家ノ製作ニ係ル繪畫、彫刻、鑄像等ノ寫眞并ニ石工彫刻

右ニテ本館ヲ畢ル

新館ノ階上ヲ以テ校友會臨時大會ノ展掲場ニ充テタリ其ノ北方ノ第一室(繪畫科壹年教室)には繪畫、彫刻、彫金、鑄金、蒔繪等ノ新製作品及模刻品等ヲ展列シ南方ノ第二室(繪畫科第二年教室)ニハ繪畫ノ新製作品ノミヲ陳列セリ中ニ就テ特別會員諸氏ノ筆ニ成レルモノニシテ本誌第一卷掲出ノ外ニ陳列セラレタルハ

○巨勢教授筆秋野双鹿ノ圖○川端教授筆海邊漁家ノ圖(ハ、リア共進會

出品)○橋本教授筆夏景山水ノ圖(同上)○同柳陰村童遊戲ノ圖○川端教授筆葡萄栗鼠ノ圖(ハ、リア共進會出品)○同春野雲雀ノ圖○橋本教授筆壽老人ノ圖(粗画)、以上第一室

○橋本教授筆蛟龍奮鬪ノ圖○巨勢教授筆中紫式部左右廬ニ千鳥ノ圖三幅對○橋本教授筆趙果老ノ圖(粗画)○同豊干禪師ノ圖○川端教授筆山水ノ圖(ハ、リア共進會出品)○狩野助教授筆羅漢ノ圖(同上)○橋本教授筆三井寺狂女ノ圖川端教授筆五月節句ノ圖、以上第二室

右ノ総点数本校ニ属スルモノ千二百十四点校友會ニ属スルモノ二百五十八点総計千四百七十二点ナリトス之ヲ細別スレバ

授業成績物展覧會々場陳列ノ分

一繪畫	三百三十點	一彫刻	四百六十八點
一彫金	百十三點	一鑄金	五十一點
一蒔繪	二百三十三點	合計	千二百十四點
校友會臨時大會々場陳列ノ分 <small>(但シ審査ノ上陳列セラレシモノ)</small>			
一繪畫	六十五點	一彫刻	六十三點
一彫金	三十八點	一鑄金	五十六點
一蒔繪	六十六點	合計	二百五十八點

開會ノ當日午前八時ヲ以テ校友會臨時大會ノ褒賞授與式ヲ行ハル之レガ賞ヲ受ケシモノハ左ノ如シ

繪畫ノ部

賞牌	日蓮上人化道ノ圖	新按	下村晴三郎
同上	鎌倉時代鬪牛ノ圖	同上	菱田三男治
同上	元祿時代三曲ノ圖	同上	天草友雄
一等褒狀	晚春山水ノ圖	同上	内海廣精
同上	阿若丸復讐ノ圖	同上	結城貞松

二等褒狀 護良親王ノ圖 同上	戸田 忠雄
同上 水墨山水ノ圖 同上	藤卷 直治
同上 山村歸牛ノ圖 同上	鶴川俊三郎
同上 金時遊戯ノ圖 同上	赤羽 順之
彫刻ノ部	
賞牌 木彫魴鯉ニ佛手柑丸彫 寫生	鮎澤 秀夫
同上 全 獅子丸彫 新按	増田 有信
一等褒狀 全壽老人額 同上	新納忠之介
同上 全魴鯉ニ佛手柑丸彫 寫生	菅原大三郎
同上 全象丸彫 新按	松原 源藏
同上 全 狎ノ額 同上	村尾 平吉
二等褒狀 全獅子丸彫 同上	龜田德太郎
同上 全 布袋丸彫 同上	後藤 省吾
同上 全魴鯉ニ佛手柑丸彫 寫生	野村 厚生
同上 全蓮肉彫 新按	頼富 新吉
同上 全燕肉彫 模刻	天岡 均一
同上 全矮鶏肉彫 同上	淺野勇二郎
同上 全波肉彫 新按	信谷 友三
同上 全馬肉彫 新按	中川萬次郎
彫金ノ部	
賞牌 彫金兜虫名刺皿 新按	岡部 覺彌
一等褒狀 全鷲手箱 同上	田雜 五郎
同上 全獅子香箱 同上	海野豊太郎
二等褒狀 全狎手板 同上	福島 仲
同上 全瓢手板 同上	小泉 永雄

鑄金ノ部

賞牌 鑄金牛置物 新按	石川巳七雄
一等褒狀 全鶴首花瓶 同上	武井 眞澄
二等褒狀 全鷲模様花瓶 同上	松田 鹿三
同上 蠟型薄肉芙蓉 同上	山本茗次郎
同上 全 牡丹 同上	榎井菊次郎
同上 全 葡萄 同上	郡司秀次郎
蒔繪ノ部	
一等褒狀 描金秋草鹿丸形菓子器 新按	原田 博亮
一同上 全 千鳥小宮 同上	石井吉次郎
二等褒狀 全秋草角盆 同上	山本 和
同上 全草花鮎三ツ組盃 同上	近藤延太郎
同上 全竹烏瓜手板 同上	氏家 靜修

右の記事に引き続き「展覧会に対する評言」と題し、『国民新聞』『毎日新聞』『小日本』の記事を転載している。その中の『国民新聞』（同年四月十二日付）は本校の絵画について、長所は認めながらも次のように短所も指摘している。

一、器械的修練を経しかと思ほしき所あり理論規法にかゝわり過ぎて自然の妙致氣韻に乏しき事

一、故に到底一種の新院躰ともいふべき人巧のものにして野生の自由生長をなしたるものに似ざる事

一、餘りに考證に力を用ひ過ごすかと思はしき事

一、泰西畫法の折衷として遠近法に著しく注意するかと思はしき事

一、畫題の多くか平凡のものに非ざるかと思はるゝ事、中に歴史のもの否歴史のといはんよりは寧ろ故實のともいふべきもの多し

一、用筆纖緻を以て勝るもの布置井然たるを以て勝るもの或は着色の纖麗を以て勝るもの等多く筆力雄勁闊大のものは少なき事即ち川端の若くは川邊的或は小石形等のもの多けれど雅邦的のものは割合に多からざるに似たり

また、各紙とも校庭で同時に披露されていた楠公銅像木型には好評を贈っている。

卒業製作の展示はこれを嚆矢として毎年行われることになった。彫刻科、彫金科、鑄金科、漆工科では「手本類ノ順序并ニ參考品」を展示したが、その出品目録の原稿が現存している（第五章第二節参照）。

2 西洋室内裝飾木組及諸張付彩畫

左の記事によつて製作に携わつた者の名前がわかる。

○米國注文ノ室内裝飾 ハ前號ニ其詳細ヲ記載ス可キヲ約シ置キタル此室内裝飾ハ米國紐育府ノ一豪家某氏ノ新築家屋中ニ日本意匠日光風ノ華麗ナル室内裝飾ヲナン花宴ノ間ト稱シ其構造方ヲ我東京美術學校ヘ注文セシニ付本校ニテハ先頃ヨリ教授生徒ノ内ニテ擔任ヲ定メ五ヶ月間ニシテ竣功シタレバ之ヲ組立テ四月三日ヨリ五日迄三日間校友會俱樂部内ニ

陳列シテ文部省其他本校關係者等へ案内ヲ發シテ之ヲ縦覽セシメタリ一見金色燦爛眼ヲ驚ス許ナリ此裝飾室ハ十二疊敷ニシテ疊ハ高麗縁ヲ用ヒ柱ハ總テ堆朱色塗ニシテ處々ニ彫刻ヲ施シテ金銀泥ノ彩色ヲナセリ定價ハ四千五百圓ニテ割合ニ低廉ナレバ米國ニ到着ノ上ハ尚續々注文アルベシ之ヲ寫眞ニ取リタル後直ニ荷造リニ着手シ米國ニ廻送シタリ右裝飾家屋ノ解説ノ要領ハ左ノ如シ

花宴の間ハ米國紐育某氏の新築中に取り付くべき日本裝飾なり同府圖案家インゲン氏の好みにして日光風華麗なる構造をもて艶にして優美なる題意を顯はし柱長押など今専ら彼地に行へるゝ堆朱を用ひ呉れよとの注文なり故に源氏物語花宴の巻を引き出で天井には朧月夜内侍と源氏との取換はせし扇を畫き四面の壁は金張附と刺繡にて苑庭の圖を顯ハし柱の金欄卷は上藹の袖を寫し壁掛と欄間は樂器の裝飾を用ひ腰張には比翼の鳥連理の樹などを彫せり花宴の折に源氏が奏でし春鶯囀柳花苑の舞を胡蝶と伽陵頻とに換へ其鳥蝶を以て長押金物類の圖を補ひしが加きインゲン氏の望みに任せたるものなり此の裝飾ハ昨年十一月工を起し五ヶ月にして成る大工ハ榎小才三氏彩色は萩原兵助氏漆工ハ岩村八兵衛氏刺繡ハ山田龜藏氏金物ハ向井繁太郎氏にて欄間と唐戸とハ高村光雲氏ストープ面と腰張との彫彫ハ石川光明氏が工を監せしものにて畫ハ下村晴三郎氏外美術學校生徒諸氏なり一切の圖案ハ美術學校教授福地復一氏の計劃に成る

（『錦菴雜綴』第五卷。明治二十八年六月）

3 山名貫義の起用

山名貫義（天保七年〜明治三十五年）は巨勢小石の後任として起用され、絵画科第一教室を指導した。貫義は父広政（紀州藩絵師）および旧幕

府絵所住吉内記広定、弘貫に就いて画を学び、維新後は新政府の勸業関係の仕事をして、明治十五年以降、内国絵画共進会や勸業博覧会の審査官、あるいは臨時全国宝物取調局の鑑査掛などに推され、住吉派の流れを汲む画家としての力量と鑑識の技能を發揮した。制作としては皇居造営の際の杉戸絵（明治十九年）その他があるが、特に古画模写を能くし、帝博の依頼による模写を多く遺した。明治二十八年十二月、本校を一旦辞任し、同三十一年八月に至って再起用され、歿年まで在職している。大和絵研究の指導者として後進に影響を与えた。

関連事項

① 「二十八年度本校経費之儀ニ付上申」

本校の経費には政府支出金、授業料、試験料、生産品（依頼製作）収入、政府臨時支出金、雑収入、利益金等が含まれる。経費の根幹をなすものは政府支出金であるが、明治二十七年五月二十六日、岡倉校長は文部大臣井上毅にその増額要求を上申した。時あたかも日清戦争による軍事費増大の煽りを受けて文教予算が著しく削減されようとしていたが、本校は開校後五年を経て組織拡充の必要に迫られていたのである。上申書（国立国会図書館所蔵牧野伸顯文書中）の文面は左記のとおりで、東京美術学校野紙に岡倉以外の手で清書されている。文末の「別紙増額仕譯書」は現存しない。

二十八年度本校経費之儀ニ付上申

此程本校二十八年度歳入歳出概算予算書進達候處其中掲クル所ノ政府支出金ノ要求額ハ金貳万參千七百七拾參圓貳拾參錢參厘ニシテ之ヲ當二十七年ノ政府支出金ニ比スレハ金七千百貳拾九圓九

拾錢參厘ノ増額ニ有之右ハ前年一タヒ上申シ本省ニ於テモ御光可ノ上昨年帝國議會ヘ附セラレタル鍍金科設置ノ事及先般中當年度ノ追加豫算トシテ第六回帝國議會ヘ提出ヲ申請シタル卒業生卒業製作ノ費用ニ於テ増費ヲ要スルノ事共ニ前顯増額ノ因由ニ有之而シテ右鍍金科設置ノ事ハ昨年既ニ帝國議會ニ提出セラレ又卒業製作費増費ノ事ハ先般中既ニ巨細其事實ヲ申立テ一旦ハ追加豫算トシテ御提出可相成御評議モ有之候義ニ付右兩項ニ就テハ今改メテ増費ノ理由ヲ具陳候必要モ無之ト存候得共其他ニ於テ尚増費ヲ要スルノ因由有之若シ其事實徹底致サ、ルニ於テハ方今國費節減ヲ主旨トセラル、ノ折柄自然容易御詮議ニモ不可相成哉ノ懸念有之校務保續上黙止難致ニ付左ニ其事實具陳致候條篤ク御省察相成度抑本校ハ専門特殊ノ技術ヲ教ユル所タルヲ以テ其教員モ亦各科専門特達ノモノヲ要スルハ勿論ニ有之是ヲ以テ方今任用ノ教員中其技術ニ於テハ夙ニ重名ヲ負ヒ本邦屈指ノ大家タルモノモ有之候處其俸給ハ一箇年七百圓ヲ超ユルモノ未タ一人モ無之是レ其待遇果シテ其當ヲ得タルモノナルヤト云フニ決シテ然ラス方今美術ノ氣運漸ク高ク隨テ大家鉅工若シ私ニ門戸ヲ立テ業ヲ營マハ其一歳ニ得ル所決シテ右ノ如キニ止マラス然ルニ尚能ク彼レカ如キ薄少ノ俸給ニテ本校ノ聘用ニ應シタル所ハ其技藝ニ關スル奉公ノ篤志ニ外ナラス而シテ本校創始ノ際ニ在リテハ生徒未タ定員ニ滿タス隨テ授業ノ時間モ尠マテ繁多ナラサリシニ由リ較々鈞合ヲ保チタリト雖爾後生徒ノ漸ク増員スルニ及テハ授業ノ時間モ亦漸ク増加シ加之兼テ生徒ノ實技練習ノタメニ創始セル實驗製作事業モ逐年頻繁ニ進ミ教員ノ時間勞力ヲ要スル愈々繁ク之ヲ本校創始